

| 2. 事業の概要と成果 |   |
|-------------|---|
| (1) 上位目標    | <p>本事業は、事業対象地の母子の健康が増進されることを上位目標とし、同地の高次医療機関であるシッダールタ母子専門病院（以下、病院）の周産期医療サービス改善を目指すものである。</p> <p>第2期目にあたる本事業を通じて期待される成果、及び具体的な指標として、以下を見込んでいる。</p>   |
| (2) 事業内容    | <p>主に、以下活動1（周産期病棟建設）を推進した第1期目に続き、2期目にあたる本事業では、主に活動2（医療資機材投入）、活動3（人材育成及び広報に係る活動）を実施している。</p> <p><b>【事業全体（1～2期目）の活動】</b></p> <p>活動0：プロジェクトマネジメントに係る活動<br/> 活動1：事業対象病院における周産期病棟建設に係る活動<br/> 活動2：医療資機材投入に係る活動<br/> 活動3：人材育成に係る活動<br/> 活動4：広報に係る活動</p> <p>本事業開始から2013年2月末までに、以下の活動を実施した。</p> <p><b>活動0：プロジェクトマネジメントに係る活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 1期目に設立した「プロジェクト調整委員会」が引き続き中心となり、随時事業進捗状況の確認とモニタリングを行った。また、活動2（医療資機材調達）を担当する「調達委員会」を新たに設立した。</li> <li>- 本報告期間中、プロジェクト委員会は9回の会議を開催し、主に医療資機材調達にかかる協議と調整（調達委員会との調整、現場病院との調整）を行った。また、病院スタッフに対して進捗状況を共有すると同時に、医療スタッフからの意見も取り入れ、より診療現場のニーズが反映された医療資機材が調達されるよう調整を進めた。</li> </ul> <p><b>活動1：事業対象病院における周産期病棟建設に係る活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2013年2月、現地建設コンサルタントが病院スタッフを対象に、営繕ワークショップを実施した。同ワークショップにおいて、既存病棟を含む修繕必要箇所の特定制と、定期的なメンテナンスの必要性が説明され、病院主体によるメンテナンス実施計画が策定されることとなった。</li> </ul> <p><b>活動2：医療資機材投入に係る活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- プロジェクト調整委員会が中心になり、一般競争入札に必要な資機材の仕様書などが準備された。</li> <li>- 2012年12月、医療資機材の一般競争入札の公示が行われた（13社応札）。</li> <li>- 公示期間終了後、調達委員会と病院スタッフによって入札書類の</li> </ul> |

|             |   |
|-------------|---|
|             | <p>評価が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2013年2月、AMDA Nepal と業者と資機材の調達に関する契約書が締結された(9社)</li> </ul> <p><u>活動3：人材育成に係る活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 第1期目に策定された”Mother-Friendly”のコンセプトに基づいた医療サービスを提供していく体制を整えるため、病院医療従事者に対する研修を実施し、看護師1名がSBA研修(Skilled Birth Attendant、有資格出産介助者)を受講した。</li> </ul> <p><u>活動4：広報に係る活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 日本側では、団体ウェブサイトなどを通じ、事業契約署名式の様子や活動状況を広報した。</li> </ul>  |
| (3) 達成された効果 | <p>本事業では、事業終了までに達成したい成果として、以下を設定している。</p> <p>(定量的指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 約14,180名/年の緊急・重症患者に対し、包括的な周産期医療サービスを提供出来る。</li> <li>- NICU患者の約15%(年間27名)の患者の命を救う事が出来る。</li> <li>- 年間約50名の子癇発作患者全員に対し、よりよいケアを施せるようになる。</li> <li>- 年間約36件の胎児仮死状態に対し、新生児蘇生を施す事が出来るようになる。</li> <li>- 年間約600名の患者に、新たに「家族計画サービス」を提供出来るようになる。</li> </ul> <p>(定性的指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- より患者のプライバシーに配慮したサービス提供が出来るようになる(患者の満足度が向上する)</li> <li>- 医療スタッフの満足度が向上する</li> <li>- 院内における十分な感染症対策が可能となる</li> </ul> <p>本事業が終了する2013年6月末に、これら成果の達成状況を確認する予定であるが、現時点で下記の成果が確認されており、事業目標の達成に向けた取り組みが順調に行われていると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 新たに家族計画サービスの提供が開始され、人工中絶手術、避妊器具挿入、カウンセリングを実施した。</li> <li>- SBA研修や病院内独自研修を通して、スタッフが新生児蘇生法の研修を受講した。その結果、胎児仮死に対して新生児蘇生法が行われた。</li> <li>- 新周産期病棟の分娩室や出産室では十分なスペースを確保した他、スクリーンカーテンの設置を検討するなど、患者のプライバシーにより配慮したサービス提供が可能な環境が整いつつある。</li> </ul> |